

特集

台湾大地震から一年

NGO生活復興支援活動報告

あれから一年

台湾大地震から一年が過ぎようとしています。この夏、台湾を旅した人は整備された町並みに地震があったことを忘れそうだったと言います。市内を歩いても、この一年の復興には目を見張るものがあり、「まち」の機能は戻ったと感じたそうです。

しかし一方では、阪神淡路大震災の例を挙げるまでもなく、復興の植音に隠れるように取り残された人びと、高齢者や障害者、そして外国人たちなどがいることも事実です。現在の復興活動は、建築ラッシュの進む地域社会の「まちづくり」が大きなテーマとなってきています。

被災者こそリーダー

地震という物理的な災害が、その社会にもたらす社会的な影響と被害の軽減について、インドの災害救援NGOであるDMI(Disaster Mitigation Institute-災害軽減研究所)の所長であるミhil・パット氏は、災害に対するNGO活動の基本理念を次のように提案しています。

- (1) 地震と復興を突発的な、物理的な出来事として捉えず、発展プロセスの一部として社会的な出来事として見なす。
- (2) 地震前の被災者と社会の関係を分析し、対策を考える基本とする。
- (3) 技術的で秩序にもとづいた解決法ではなく、社会の構造や関係を変える解決法に重点を置き、人々が本来持っている力を強めることを目的とする。
- (4) 中央集権化した政府の政策を中心とせず、災害対策にNGOや被災者自身など多くの人々が参加し、現場や当事者に決定権を保障する分権的プロセスをつくりだす。
- (5) 災害対策が人々に知らされ、当事者のニーズにあったものになるように要求していく。
- (6) 復興を「被

災前の状態に戻すこと」と考えず、復興のプロセスが被災者や地域住民全般の社会変革の機会として捉える。

インドのグジャラート州で活動するDMIは、これまでの先進国の指導のもとに行われる緊急救援、復興に疑問を持ち、被災者自身の自発性と参加による災害軽減活動を続けています。94年に横浜で開催された「国連防災会議」でのパット氏のプレゼンテーション - Disaster where the Victims are leaders (災害においては被災者こそがリーダーである)がその理念を端的に示しています。

災害によってもたらされる社会の混乱は、災害以前にその社会が抱えていた問題が、より強調されて噴出することによってもたらされる混乱であると言われます。阪神淡路大震災を経験した私たちは、新たに台湾大地震から何を学ぶことができたのでしょうか。

阪神淡路大震災の10倍の規模

1999年9月21日午前1時45分(現地時

間)台湾で大地震が発生しました。台北から南南西145kmにある南投県の集集(チーチー)付近を震源地とし、マグニチュード7.6の激震でした。その規模は阪神大震災の10倍とも言われ、死者は2,400人を越えました。全半壊は5万棟を越え、被災した人々の数も数十万人に上りました。

地震による被害の深刻だった南投県埔里(プーリー/人口9万人弱)では、死者204人、全壊家屋6,200戸、半壊6,600戸、今年4月初めの時点で1,000戸たらずの仮設住宅に約3,600人が収容されました。しかし、仮設の抽選に外れ、家を建て直す資金もなく、いまだにテント暮らしを余儀なくされている人もいます。

救援活動と文化

東アジアにあって、緊張した政治状況にある台湾は、「非常時」に対する国家的な体制がつくられていて、地震発生後いち早く軍隊による救援活動がスタートしたと言われます。地域の相互扶助精神による地域活動、仏教団体など宗教団体による



震災直後、様々な団体が活動した。

救援、仮設住宅建設も進められました。台湾ではボランティアを義士(ツウシー)といますが、地域に多数の民間団体があり、ボランティアはいずれかの組織の構成員になっていて、組織的な活動が目につきました。建物などハード面では構造的なもろさが露呈しましたが、発災後の体制整備などソフト面では迅速な対応が際立ちました。

しかし、阪神淡路大震災の経験から、物質的な援助よりも、被災者の「メンタルヘルス」の必要性が被災後台湾の人々からも言われたものの、「メンタルヘルス」はその地域の文化に深く根ざし、地域固有の言語に依っているため、台湾語を話せない外国人の関与が難しく、また、日本と台湾の経済格差が殆どないため、「円」の強さを活かさないことも救援活動の難しさでした。

NGO生活復興活動支援募金

当協会では、台湾の人々の窮状に対して、NGO生活復興活動支援募金を、神奈川県と連携して行いました。この募金は、被災地が緊急事態を脱し、復興の主体が地元住民に移行する段階に、被災地で効果的なプログラムを実施できるNGO、あるいは、ボランティア団体に寄託し、被災者の生活復興を支援することを目的にして呼びかけられました。募金額は、募金を開始した昨年10月から12月21日までの約3ヶ月間で、約250万円にのぼりました。特に、今回は、多くの小・中・高等学校から寄付が寄せられました。

募金の配分は、当協会内に協会と外部組織で構成する「台湾大地震募金配分委員会」を設置して協議した結果、特に災害弱者になりやすい「外国人」「障害者」に対する支援という視点に注目し、次の2団体に寄託しました。

台中生命線

台中(タイチン)市の民間ボランティア団体で自殺防止の電話カウンセリング(いのちの電話)を実施してきました。震災前は、台湾人を対象にした電話相談活動を行っていましたが、新たな相談員ボランティアを得て、日本のNGOである多文化共生センター撤収後の外国人支援活動(多言語ホットライン)を引き継ぎました。

外国人地震情報センター・台湾の活動

阪神淡路大震災の際に「外国人地震情報センター」として大阪で発足した多文化共生センターは、被災外国人に対し、延べ15カ国語による電話相談やニュースレター

発行を行った経験から、台湾大地震での被災外国人に対し情報提供活動が必要であると判断し、「外国人地震情報センター・台湾」を台中市に開設しました。支援活動の内容は次の2点です。

多言語ホットライン(電話相談)開設

タイ語、フィリピン語(タガログ語)、インドネシア語、英語、日本語、中国語の6カ国語で、被災地での生活情報を提供。10月2日から11月30日までの間でフィリピン人34件、タイ人6件、インドネシア人1件、台湾人2件、日本人1件の合計44件の相談電話がありました。相談内容は、補償金2件、解雇や求職などの労働5件、医療8件、在留資格1件、安否確認7件、余震への不安などその他23件と余震が長時間続いたことにより不安を訴える電話が相次ぎました。

多言語ニュースレターの発行

9月25日より先遣隊3名が現地入りし、台中市内に事務所を借り、10月2日より上記の6言語で生活情報をまとめたニュースレターを毎週発行しました。その後、日本からスタッフ、通訳者を派遣するとともに台湾人にボランティア参加を呼び掛け、被災地での多言語による情報提供活動を開始しました。医療、補償金、余震などの震災情報をインドネシア語、タイ語、フィリピン語、英語、中国語、日本語に翻訳し、計10回、総計約3000部を被災地で配布しました。またラジオ放送局(Central Radio Station、ICRT、来来Radio)にニュースレターを送付し、番組で情報提供も行うことができました。

活動の引き継ぎ

外国人地震情報センター・台湾では、受けた相談内容に地震と直接関係のない求職や医療機関の問い合わせなどもあり、震災時に限らず日常的に外国人へのサポートが必要であると判断し、ホットラインの引き継ぎ先を探していました。そこに、台中市で24時間の電話相談を行なう台中生命線が多言語の電話相談窓口を新設し、活動を引き継ぐ意向があると聞き、話し合いを重ねました。

外国人地震情報センター・台湾と台中生命線が数度の会議を行った結果、12月中旬から1ヶ月間、日本人スタッフが滞在し、これまで実施してきた内容や台湾の協力団体との関係についての引き継ぎを次のようにすることになりました。

1) ホットライン

台中生命線は総合的な外国人相談窓口となり、福祉関係、精神面でのケア、および労働相談を受ける。労働相談などは現地

NGOとも連携して行なう。

2) ニュースレター発行とアウトリーチ

ニュースレター発行の方法、内容、及び配布先などのノウハウ提供を行い、外国人地震情報センター・台湾で集まった台湾人ボランティアらを中心に台中生命線を拠点とし、台中生命線スタッフと情報交換をしながらニュースレターを発行し、外国人の手に届ける。

3) ラジオ放送との連携

現地で作成したニュースレターをもとにラジオ局との連携を図る。

台中生命線の現在の活動

多言語ニュースレターの発行や配布先などのノウハウは引き継がれ、不定期ですが活動を行っています。またホットラインについては、外国人のための専用回線を設置して、外国人からの相談に対しても積極的に対応していく方針です。

台湾における外国人支援の今後の展望

現在、台湾には約40万人の外国人が在住しています。人口比で1.5%となり、日本とほぼ近い人口比率で外国人が暮らしています。台湾と日本の外国人支援活動の違いは、日本では、「日本人が運営主体や活動を担っている外国人支援団体」が多く存在しますが、台湾では「台湾人が中心となって外国人を支援している団体」は非常に少ないことです。例えば、外国人地震情報センター・台湾が活動の中で協力を得た外国人支援団体は、台湾に暮らすフィリピン人やタイ人を中心として運営されている当事者グループでした。外国人自身が中心となっている団体は、同じ出身国の人たちから信頼を得られるため、重要な役割を担えますが、その反面、政策提言や地域社会へのアプローチなどの活動を行うためには、やはり台湾人が活動にコミットすることによって台湾社会に対する影響力が大きくなるのが現実です。



エデン財団バス、被災地で指圧サービスを実施。

そのような事情を考慮して、外国人地震情報センター・台湾は、すでに存在するフィリピン人が中心の外国人支援団体ではなく、あえて台湾人が中心の台中生命線に活動を引き継ぎました。これは、台湾で社会的に信頼を得られている団体が外国人支援活動を行うことで、台湾の一般の人たちへの外国人(特に外国人労働者)問題に対する問いかけになると考えたからです。

台中生命線にとっては、引き継いだ活動を根気よく定着させていくことが課題となりますが、現在のところは地震前からの通常業務であった台湾人への相談活動に追われ、外国人支援団体としての認知度、信頼度はまだまだこれからというところ です。これをNGO、NPO活動として定着させていくためには、今後も台湾と日本、さらには他のアジア、欧米諸国とのネットワークを築いていく必要があります。

(財)伊甸社会福利基金会 (エデン財団)

障害者の社会参加と雇用促進、高齢者や子ども、女性へのプログラムを実施する、1982年に設立されたNGOです。台湾におけるICBL(地雷禁止国際キャンペーン)推進団体として、アジアの地雷被害者への支援活動に取り組むほか、障害者の福祉の向上や職業訓練、車椅子の製造組み立てなどを行なっています。台湾を代表する小説家である創設者の劉俠氏をはじめスタッフ400名のうち、75%が障害者です。

南投服務中心の設置

今回の震災により、南投県で約2万人が障害を負いました。エデン財団は12月31日に「南投服務中心(南投サービスセンター)」を南投市に設立、被災状況と必要なサービスについて被災者に対するニーズ調査を行いました。住居の建て直し補助と精神的なサポートにニーズが高く、経済的支援を求める切実な実態が明らかになりました。また、入院はしないものの、後遺症に対する治療、リハビリのための通院介助に多くの方がサービスを必要としていました。この調査結果を踏まえ、リハビリテーションや職業訓練、独居老人への介護活動、電話相談などの活動を行ってきました。

Disable(できない)とAble(できる)

地震発生後、ただちに視覚障害者スタッフによる被災者だけでなく、昼夜を問わず活動を続けるボランティアを癒すためのボランティア活動が行われました。「健常者」から見た「disabled」(できない)ではなく、



財団が主催する「地雷と障害」のワークショップ。青少年を対象に2泊3日で開催される。

「障害者」の内側から“able”(できる)を引き出すことが活動の基本です。

復興が進むにつれ、寄せられる相談は、被災によることから、徐々に障害者や高齢者が日常生活で受ける不自由さや困難に関わることへと移行してきました。エデン財団は、今回の震災によって設けた南投サービスセンターを今後も継続して運営し、新たな地域ニーズに対する多様なサービスを提供する予定です。



障害者自身が車椅子をつくっている。

エデン財団の多様な活動

同財団が台北市郊外の工業団地内に設けた事業所では、軽くて丈夫、そして使いやすい車椅子が職員の手によって組み立てられています。国内で販売あるいは寄付されるほか、ベトナム、カンボジアなど、アジアの地雷被害者に年間2,000台が寄付されています。車椅子のほかに、電子体温計などの組み立て作業も行なっています。また、障害に対する理解を進めるため青少年を対象に「地雷と障害」をテーマにしたワークショップなども開催しています。

今後の可能性

今回の台湾大地震では、日本に最も近い隣人である台湾との間に、NGOの交流が充分に行われてこなかったことを実感しました。東アジアの緊張した国家間の関係から、本来NGOは自由なはずですが、実際は多くの困難をNGOもまた回避できない現実があるようです。

80年代から日本社会に生じた外国人労働者の急増は、21世紀に向けてアジア全体の「労働力移動」問題としてクローズアップされています。今後、地域の多文化共生を推進する試みがアジア地域に広がり、NGOのネットワークが広がるのが期待できます。また、エデン財団の基本理念の一つである「当事者の当事者による全ての人のための」活動は、アジア地域で盛んになってきているCBR(地域資源を活用した障害者の社会参加推進プログラム)とつながっていくでしょう。日本の障害者団体もエデン財団に注目し始めています。

災害は物理的にも社会的にも多くのものを破壊します。しかし、その復興のプロセスに多くの新しい出会いと発見を通じた連帯が築き上げられるのであれば、復興は単に「被災前の状態に戻すこと」ではなく、被災者や地域の社会変革の機会として捉えることができるのではないのでしょうか。

「外国籍県民生活実態調査（ヒアリング調査）を行ないます！」

昨年度行われたアンケート調査

昨年12月から今年の2月にかけて、神奈川県は、外国籍県民の生活上の困難を具体的に把握し、行政の施策に反映させることを目的とした「外国籍県民生活実態調査」を行ないました。このアンケート調査は、1984年に神奈川県が全国に先駆けて主にオールドカマーを対象に行なった「実態調査」に次ぐもので、県内に居住する外国籍県民のうち、ニューカマーの増加に焦点を当て、オールドカマーとニューカマーのそれぞれについて労働・医療・福祉・教育など多岐にわたり質問しました。無作為抽出された18歳以上の3,024人の外国籍県民のうち、1,007人の方がこれに応じました。今年度のヒアリング調査は、このアンケート調査の結果を踏まえ、浮かび上がりつつある



7月16日(日)読売新聞

課題をより深く掘り下げるために行なうものです。

アンケート調査で明らかになりつつあること

昨年度行われたアンケート調査の概要はすでに新聞紙上で報道されており、社会的関心が高いことが示されました。詳細な分析結果について、ここでは紹介できませんが、例えば、回答を通じて、子どもが被る就職差別に不安を抱くオールドカマーの親たちの声と、日本社会への順応速度の違いから親子の間に生まれつつある「心の溝」に悩むニューカマーの親たちの声が浮かび上がってきました。また、子どもの教育をめぐる外国籍県民の不安や心配が決

7月21日(金)神奈川新聞



7月27日(木)毎日新聞

して様でないことも浮き彫りにされました。

さらに、ニューカマーの場合、病院や公的機関へのアクセス、「町内会や自治会などの地域の会」への参加など、地域社会へのアクセス度が、極めて低いことなども示されました。

ヒアリング調査の実際

今回のヒアリング調査は協会が神奈川県からの委託を受けて企画、実施するもので、対象は100名から150名を予定しています。特にこのヒアリング調査では、企画の段階から、外国籍県民の日常生活圏に近いところで活動しているNGOや外国籍県民当事者の参加を得て、当事者や当事者により近い意見をできるかぎり積極的に設問設

計に盛り込む予定です。「こちらが聞きたいこと」ばかりでなく、「当事者が聞いてほしいこと」にできる限り手が届くように、さまざまな人々との共同作業を進めていきたいと考えています。

なお、調査の報告書は2001年3月末に発行される予定です。

がんばれ! 草の根国際協力

「かながわ民際協力基金」秋の助成申請募集

神奈川県国際交流協会では、10月1日から11月30日までの間、「かながわ民際協力基金」への助成申請を募集します。申請できるのは、次の ~ のいずれかに該当し、来年4月1日以降、1年の間に開始される事業です。

なお、緊急支援事業の助成申請については、随時受け付けていますので、お問い合わせください。

海外の開発途上地域での協力活動
外国籍県民等を対象とした、県内での協力活動
国際協力の担い手を育成する活動
NGOの組織強化や活動の充実を図るための活動

申請を希望される方は、「2000年度助成金申請の手引き」を参照し、受付期間内に申請書とその他の必要書類を提出してください。「申請の手引き」は、当協会の受付にあります。郵送をご希望の場合は、200円分の切手を貼ったA4サイズの返信用封筒をお送りください。

申請資格 県内に活動拠点があるか、主に県内で活動するNGO。

助成上限 ~ 300万円 50万円
いずれも、助成対象経費から他の公的助成金の額を引いた金額の1/2まで。

申請募集説明会にご参加ください

神奈川県国際交流協会では、「かながわ民際協力基金」への助成申請に関する説明会を開催いたします。申請書の書き方や審査のポイントについてお話しするほか、他の助成制度に関する情報提供なども行います。事前の申込みなどは必要ありませんので、気軽にご参加ください。

日時 10月15日(日) 13:00~15:30

場所 あーすぶらざ 1階 研修室A
(JR根岸線「本郷台」駅徒歩3分)

プログラム

- 第1部 (13:00~14:30) 説明会
- 第2部 (14:30~15:30) 個別相談

第5回 草の根国際協力 入場無料 応援バザー開催

日時 11月26日(日) 11:00~13:00

場所 あーすぶらざ3階 企画展示室
(JR根岸線「本郷台」駅徒歩3分)

今年も、NGO(市民による国際協力組織)の活動支援のためのバザーを開催します。バザーの売り上げはすべて、「かながわ民際協力基金」への寄付金とし、NGO活動への助成のために使わせていただきます。

大好評のこのバザーも、今年で5回目を迎えます。毎年多くの企業・団体や一般の方々から、食品・食器・雑貨などの品物が寄せられ、昨年度の売上総額は404,671円となりました。入場は無料です。なお、10月1日(日)~11月18日(土)までバザーで販売する品物の寄付を受け付けています。準備作業、当日販売補助のボランティアも募集中です。

品物は、次のいずれかの方法でお届けください。

1. 協会事務所(横浜市栄区小菅ケ谷1-2-1 あーすぶらざ1階)まで持参
*お車で来館される方は無料駐車スペースをご用意しますので、事前に連絡をお願いいたします。
2. 赤のマジックで「バザー用品」と明記の上、(財)神奈川県国際交流協会あてに、宅急便で送付してください。
(恐縮ですが、送料をご負担願います。)

問い合わせ 民際協力課

(E-mail: minsai@k-i-a.or.jp)

秋期英会話講座 受講者募集

世界のこと、日本のこと、日常生活のことなどを、より多くの人たちと話せるようになることを目標に、英会話講座を開講します。神奈川県との友好姉妹州の米国メリーランド州から招いた専任講師が講座を担当します。

楽しい雰囲気の中で英会話を学びませんか。

申込み受付日時

平日昼クラス希望の方 9月30日(土) 午前10時
夜クラスと土曜クラス希望の方 9月30日(土) 午後2時

クラス分けのための簡単なテストを行ないますので、電話予約のうち、上記日時にお越しください。筆記用具と受講料等をご持参ください。申込み受付にはテストの時間を含めて約2時間かかります。申込み希望者が各クラスの定員を超えた場合は抽選となります。定員に満たない場合は、10月5日(木)に追加受付を行ないますので9月30日以降にお問合せください。

対象 18歳以上の方
定員 各クラス17名(継続受講者を含む)
費用 受講料 39,900円(消費税込み)
協会年会費 3,000円(会員の方は不要)
費用は申込み時に一括でお支払いいただきます。
お支払いいただいた費用は、払い戻しできませんのでご了承ください。
会場 神奈川県国際交流協会・研修室
(JR根岸線「本郷台」駅徒歩3分・あーすぶらざ1階)

講座内容

講師 Ms.Mary Elizabeth Nitsch (メリーランド州から招いた専任講師)

期間 10月13日～2001年3月8日(週1回、全18回)

Aクラス(上級) 社会時事全般を題材にした話し合いが中心の応用会話クラス
Bクラス(中級) 英語で日常の簡単な受け答えができる方の日常実用会話上達クラス
Cクラス(初級) 英語は少し聴き取れるが、あまり話せない方の初級会話クラス

講座日程

	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
昼のクラス 13:30～15:00	Cクラス	Bクラス	B+クラス	Aクラス
夜のクラス 18:15～19:45	Bクラス	Aクラス	Cクラス	

問い合わせ 企画情報課 (E-mail: kikaku@k-i-a.or.jp)

講師紹介

メリー・エリザベス・ニッチ(愛称 メンディ)

ジョージア州サバナ生まれ。大学院で英語を母語としない人への英語教授法を学び、大学では人文学を専攻。現在は、昨年9月から米国国務省の派遣によりドミニカ共和国の文化研究所で英語教授研究員として現地の英語教員向けの指導プログラム作成をしています。また、それ以前もボルチモアの公立中学校やエクアドルで英語を教えていました。日本の音楽と、音楽と生活の関わりに興味があるとのこと。

米国・メリーランド州からの新旧英会話講師のメッセージ

神奈川県と友好提携都市関係にある米国・メリーランド州から英会話講師として2年間ご活躍いただいたダイアン・ミアムさんが帰国することとなり、後任の講師としてメリー・エリザベス・ニッチ(愛称:メンディ)さんをお迎えします。

初めに、ダイアンさんから帰国に際してのメッセージです。2年間ありがとうございました。

It is hard to believe that it has been almost two years since I first came to work at the Kanagawa International Association. I hope that my students have learned something, because I have learned so much. The most important thing that I have learned is that words are only part of the communication. Smiles, laughter, and a flash of light in the eyes mean so much more. They remind me that, despite our cultural differences, the human condition is much the same. You have all heard me talk about my research report on sake. The research has been a lot of fun, and many of you have helped me with it. At the time of this writing, I am still unsure of my career goals in Maryland. I feel that I need some time to reflect on my experience in Kanagawa Prefecture first. I hope to continue to study the Japanese language, anticipating a return visit to Japan at some future date. In the meantime, I wish to say thank you for your many kindnesses. You will always be welcome at my home in Maryland.

Diane Merriam

神奈川県国際交流協会に勤務をすることになってから、早いものでもう2年が経ちました。英会話講座の受講者の方は、さまざまな事柄について学んできたこと

と思いますし、私の方も学ぶことが多くありました。人々とのふれあいの中で最も大切なことは、言葉はコミュニケーションの一部に過ぎないということです。笑顔や笑い声、そして目の輝きは、言葉より多くを意味するものなのです。文化の違いにもかかわらず、人は誰も、大部分のところ同じであるということに改めて感じさせてくれました。

ところで、私の日本酒の研究については、皆さんもうご存知だと思います。お酒の探究は大変楽しく、また多くの方々に助けていただきました。

この原稿を書いている今でも、帰国後、どのような職業につくかはまだわかりませんが、まずは神奈川県での経験を整理する必要があると思っています。日本語の勉強は続けたいと考えていますし、近い将来、また日本に来ることができれば、と今から楽しみにしています。みなさん、メリーランドの私の家へぜひ遊びにいらしてください。心よりお待ちしております。

ダイアン ミアム

では、10月からの英会話講座を担当するメンディさんからのメッセージです。

I would like to thank you for inviting me to teach English in Yokohama through the Kanagawa International Association. I know Ms. Diane Merriam has made a great impression, and I will do my very best to match her high standards and enthusiasm.

As a resident of Maryland, I look forward to strengthening ties with the Kanagawa Prefecture through the Sister States Program. I earned my master's degree from the University of Maryland Baltimore County, where I studied with Ms. Diane. I have experienced teaching Spanish and English as a second language for Baltimore County Public Schools. I have also taught English for three years in

Latin America. While living in Latin America, I met many wonderful Japanese volunteers and students. It was these friendships that fostered my interest in travelling to Japan. After three years in Latin America, I am anxious to explore other countries and cultures. I know teaching for the Kanagawa International Association will be an ideal opportunity to experience Japan, and I anticipate a great adventure.

Mendy Nitsch

神奈川県国際交流協会のプログラムで、横浜で英会話講師として教えることができ、大変ありがたく思っています。

前任者のダイアンさんが大活躍されたということは伺っており、彼女の後任としてベストを尽くす気持ちであります。

また、メリーランド州出身者として、この姉妹都市事業を通じて神奈川県との絆もより一層深めていきたいと思っています。

ダイアンさんとは、メリーランド州立大学で、ともに修士号を取得し、ボルチモア州立の小中学校では、第二言語としてのスペイン語と英語を教えていました。

その後3年間、ラテンアメリカの国々で英語を教えていました。ラテンアメリカ滞在中は、素晴らしい日本人のボランティアや学生の方々と出会いました。その出会いを通して、日本という異国に対する興味がいってきたのです。ラテンアメリカ滞在を終えたあとも、他の国々・文化を探求したいという気持ちはさらに膨らみました。KIAの英会話講師として日本のすべてを体験できることは、まさに絶好のチャンスであり、今からみなさんにお会いできるのを大変楽しみにしています。

メンディ・ニッチ

ユネスコ世界遺産を描く平山郁夫展の御案内

当協会会長で日本画家の平山郁夫氏は、紛争や略奪によって失われつつある文化遺産の修復や保護・保存を目指す「文化財赤十字」を提唱し、ユネスコ親善大使としてカンボジアなどアジアの遺跡修復に力を尽くしています。2000年は「平和と非暴力の文化」の概念を推し進め積極的な平和の実現を目指す「平和の文化国際年」にあたります。これらを踏まえ、平山氏が描いた世界遺産の本画・素描の中から「ユネスコ世界遺産」を63点厳選して展示をいたします。



開催期間 9月14日(木)～10月1日(日) 月曜休館 9時～17時

開催場所 あーすぶらざ3階 企画展示室
(JR根岸線「本郷台」駅徒歩3分)

入場料 一般・大学生/800円(640円) 高校生・中学生/400円(320円) 小学生以下/無料 ()内は、前売り及び20名以上の団体割引料金

前売り 県民チケットセンター、県民音楽堂センター

問い合わせ あーすぶらざ事務室にて発売中

あーすぶらざ・学習サービス課 TEL:045-896-2898

なお、校外学習でのご利用は事前に申請していただきますと、入場料免除となります。

留学生と市民のつどい

神奈川国際学生会館・淵野辺では、留学生と市民が文化活動を通して交流する恒例の手作りの催しを行います。

どなたでも好きなプログラムに参加できます。

当学生会館に在住していない留学生も大歓迎です。

と き 10月29日(日) 10:00~17:00

と ころ 神奈川国際学生会館・淵野辺
(JR横浜線「淵野辺」駅南口徒歩3分 大野北公民館隣)

参 加 参加自由、無料
問い合わせ 神奈川国際学生会館・淵野辺
TEL: 042-768-0211

催しの内容は毎年変わります。昨年は午前中は留学生が日本文化を体験し、午後は留学生による自主企画の催しとして、留学生と市民の交流や母国文化の紹介を行いました。

今年の内容は、現在、留学生同士で検討中です。詳細は10月初旬には確定しておりますので、上記へお問い合わせください。当日をどうぞお楽しみに。

会員のつどいも
あわせて開催!

神奈川県国際研修センターのオープン・ハウス センター・デーのお知らせ

横浜市旭区の二俣川にある「国際研修センター」には、中国、タイ、カンボジア、ウズベキスタン、サモア、エルサルバドルなどからの技術研修員と、主に中国・韓国からの留学生など12の国と地域から40名ほどが滞在しています。

「センター・デー」は、研修センターの年に1度のオープン・ハウスです。秋の1日、交流のひとつを過ごしてみませんか。

神奈川国際交流協会の会員の方を対象とする「会員のつどい」も併せて行います。どうぞお出かけください。

プログラム *内容は変更される場合があります。

と き 11月12日(日) 10:00~17:00

と ころ 神奈川県国際研修センター
(相鉄線「二俣川」駅下車、バス「運転免許試験場循環」でバス停「中尾町」下車)

参加費 無料(料理教室のみ材料費が必要です)
内 容 留学生料理教室「餃子をつくらう」(予定)10:00~12:30
(材料費500円)
(要申し込み、定員25名)
ミニバザー 12:00~

沖縄の芸能「エイサー」の
パフォーマンスと体験教室
13:00~14:00

研修員・留学生の出身国紹介
と交流(展示、ミニ・トーク
「韓国の学生生活」「カンボジア
の世界遺産アンコール・ワット」
など)14:00~17:00
会員のつどい 15:30~16:15

問い合わせ
申し込み 神奈川国際研修センター
TEL: 045-366-0157
FAX: 045-366-0164
E-MAIL: kpic@hamakko.or.jp

日本語講座 秋の募集

はじめて習う方から上級者まで4つのレベルのクラスがあります。日本語を勉強したい方をご存知でしたら、ぜひこの講座を紹介してください。

日 程 10月28日~2001年3月10日
(毎週土曜日、80分、全18回)
年末年始、祝日は休み

時 間 9:30~10:50 または11:00~12:20
ク ラ ス 入門クラス、初級クラス、中級クラス、
上級クラスの4クラス。

定員は各クラス10名まで。ただし、5名に満たないクラスは開講しません。

会 場 あーすぶらざ1階 研修室
JR根岸線「本郷台」駅より徒歩3分

対 象 15歳以上の方
費 用 36,750円(消費税込み)
問い合わせ 企画情報課(E-mail: kikaku@k-i-a.or.jp)

クラス分けのための簡単なテストを行います。受講を希望する方は、都合の良い日にちと時間を電話で予約して、協会に来てください。ただし、月曜日は休みです。締め切り:10月21日(土)です。

英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語での対応ができます。お気軽に電話ください。

神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切に「国際交流」「民際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

あなたも会員になりませんか?

協会の活動を支える会員を募集しています。

会員になると

協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』『サラダボウル』をお送りします。

会員の方を対象にした催しへご招待します。『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。

会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

年会費:個人 3,000円から
団体 10,000円から

*会員になりたい方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

協会が運営する地球市民かながわプラザ内の施設の利用時間は下記のとおりです。

情報フォーラム 9:00~20:00
(土曜・日曜日・祝日 9:00~17:00)
映像ライブラリー 9:00~17:00
*月曜日は休館日です。



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。

各事業に関するお問い合わせは、
(財)神奈川県国際交流協会
(☎045-896-2626)
までどうぞ。

Hello
friends

2000年9月1日発行
第216号

発行 財団法人 神奈川県国際交流協会
〒247-0007
横浜市栄区小菅ケ谷一丁目2番1号
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階
☎045-896-2626 FAX 045-896-2945
URL: http://www.k-i-a.or.jp
E-mail: hello@k-i-a.or.jp

デザイン (株)エー・シー・ピー
印刷 (株)野毛印刷社

キャラバン・サライ

1990年に協会に入ってから初めてかわつた大きなイベントとして、今でも忘れられないものに、かながわ識字国際フォーラムがあります。当時、パワフルフレイル(国際的な識字運動に貢献)の名前が知らず、学園祭の気分分でボランティアの人たちが徹夜で準備をしておりました。しかし、会議や分科会での参加者の体験に基づいた言葉を聞いたとき、今まで自分では普通な事と感じていたことが、そうではない事に気づかされてショックを受けたことを覚えておりました。それは国内外を問わず、識字について認識不足だったことでもあります。この時まで、普通な事と私が感じていたこと、たまたま学校に行くことや字を読み書きできるとは、普通な事、いや、人がいればその数だけ、普通な事、あるという、あたりまえのことに今更ながら気づかされた苦い経験がこのフォーラムではあります。

当協会では留学生が生活する会館を3施設運営しており、私はその会館で、たくさん留学生と関わることができました。留学生会館は93%が私費の留学生で占めており、残り少数の日本人学生となっており、残り少数の日本人学生と大学の先生も、20代前半の大学生も、国語、大学、学部もさまざまであり、そのための会館の中で共通語は自然と日本語となり、日本人が「リタイア」であるという、その会館の特筆すべき環境だと思えます。その会館で、日本語の準備を見ていたことが、宗教上の理由で食べられないものがある学生がいるという、同じようなことでも複数種類をいつも作っていることとです。会館ではたくさんの人との出会いを通して、「いい」事が、普通な事として認められ、日常的に行われているのです。(管理:国連課 服部賢一)

*キャラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった陸商、文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。次回の機関紙の発行は11月上旬の予定です。(Hello Friendsは奇数月に発行しています。)